

こむれび

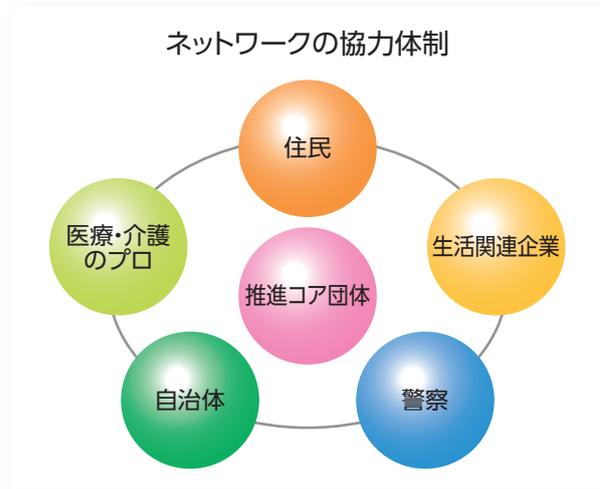
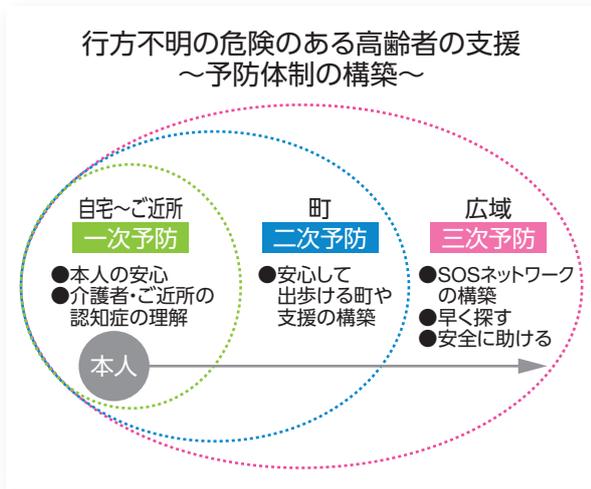
第 4 1 号

理事長からのメッセージ

昨今のテレビ・新聞報道で、社会福祉法人の在り方や存在意義について、ここまで議論されたことも今までになかったかと思えます。主には、‘社会福祉法人は利益を溜めこみすぎてそれを地域に還元していない?’というご指摘です。確かに施設や事業の運営だけをやっているなら、社会福祉法人でなくても、株式会社でも、NPO法人でも構わないのかもしれませんが。又、同じ事業であれば税制も一緒に当たり前という理屈も分からないではありません。我々はこちらでもう一度襟を正し、地域にとって本当に必要なことは何か、何ができるのかを考え巡らせているところです。制度の狭間にいる方や、制度によって本来支援できるはずなのに利用の仕方を知らない方も少なくありません。セーフティーネットとして役割強化が叫ばれているところです。又、下欄「徘徊老人のSOSネットワーク事業」のように地域全体で支えなければならない取り組みが他にもあるはずで。今後も地域に根差し、地域とともに歩んでいく社会福祉法人を目指して参りたいと思いますので、たくさんのご助言・ご要望を頂きたいと思えます。

理事長 大屋敷 幸志

徘徊老人のSOSネットワーク事務局としての活動を振り返って



昨今、マスコミでもかなり取り上げられている通り、高齢者の行方不明、特に認知症高齢者の行方不明の問題が深刻化しております。

茅ヶ崎・寒川地域では、平成10年に「徘徊老人のためのSOSネットワーク」を立ち上げました。立ち上げメンバーである「ふれあいの森」はSOSネットワークの事務局となっており、警察から捜索協力依頼があった方、もしくは発見された方の情報を各関係機関（行政機関、交通機関、各施設、地域包括、社協、ボランティア組織など）へ一斉にFAXをします。地域全体で早くその方を発見するということが目的です。おかげさまで茅ヶ崎・寒川地域在住の認知症高齢者の行方不明では、死亡という最悪の事態は回避され、ほぼ行方不明当日に発見されています。それだけ地域住民の認知症に対する理解が少しずつ深まってきており、地域での見守り支援体制が整ってきていると感じます。

また、SOSネットワーク事務局として一時保護施設としての役割があります。身元が分からない場合、身元が判明するまでふれあいの森にて保護をするというものです。全国の特養でも身元不明の方を保護して安全な生活を提供しています。保護件数としては少ないのですが、役割としては非常に大きいと思っております。

システム開始以来、茅ヶ崎、寒川の行方不明者はほぼ発見はされていますが、行方不明から発見までのタイムラグがまだまだあります。今後は、茅ヶ崎・寒川地区においては「茅ヶ崎・寒川SOSネットワーク連絡協議会」にて常にシステムのブラッシュアップしていくことが必要であり、また、認知症高齢者に対する地域住民の意識、全ての関係機関の意識を更に高めていくことが必要だと考えております。（ふれあいの森 施設長 田中）

2015
3.1

No.
41

- 1 理事長からのメッセージ
- 1 徘徊老人のSOSネットワーク事務局としての活動を振り返って
- 2 ふれあいの森
- 3 ふれあいの泉での生活
- 4 里 第18回ふれあいの里祭り
- 5 こすもす そうだ!江の島に行こう♪
- 6 みのり 9月のイベント
- 7 元町 化粧療法
- 8 新人紹介
- 8 編集後記

ふれあいの森

去る10月5日(日)、恒例の森祭りが今年も開催されました。台風の影響で悪天候のなか、今年も多くの利用者、ご家族また地域の方にご参加頂き、盛況なお祭りとなりました。特に今年は出店の売り上げがほぼ完売状態で、また例年になく子供たちの姿が多くみられたのも特徴でした。

出店では定番の焼きそば、焼き鳥に加えて、今年はラムネ、コーラ、ノンアルコールビールを販売し、利用者の方には普段の施設生活とは違った飲食を楽しんでいただきました。特にラムネは昔ながらの瓶で売ったせいか、懐かしいという声も聞かれ、ご好評を頂きました。

施設内のゲームコーナー(魚釣り、輪投げ、ダーツ)では、普段活動が少ない利用者が、紙で作った魚を釣り上げて歓声をあげ、多くの子供たちもゲームに参加し、景品を獲得し喜ぶ姿もありました。

また今年はゲームの景品に綿菓子に加えてポップコーンを提供し、職員がフライパンを使って調理しました。そのおかげか、こうばしい香りが会場をつつみ綿菓子とともにお祭り気分を盛り上げていました。デイフロアーでは例年通りボランティアの方によるコンサートも催しました。

オペラという利用者が普段聴き慣れない歌で心配もありましたが、昔懐かしい曲目も演奏され、一緒に歌い、中には涙ぐまれる方もいらっしゃいました。今年はすべての職員が法被を着てお祭りに参加し、普段と違う職員の姿もまたお祭り気分を掻き立てていました。



ふれあいの泉での生活

ユニット誕生会

ふれあいの泉では、各ユニット毎に誕生会を行っています。やきそば作りやデザートづくり、お寿司や牛丼を出前でとることもあります。和やかな雰囲気の中、楽しい時間が過ごして頂いています。



ボランティア活動

ふれあいの泉では、傾聴・フラワーアレンジメント・楽器演奏・合唱等の様々なボランティア団体の方に定期的に来訪して頂いております。一緒に参加される方も多く、生活に潤いを与えて頂いております。



里 第18回ふれあいの里祭り



10月25日(土)、今年のふれあいの里祭りは、晴天に恵まれて入居者の皆様の他にもご家族や地域の方々と、様々な方にご来所いただきました。また、模擬店にご協力いただいたボランティアの皆様やバザー用品・展示品のご提供をいただいた皆様には毎年お世話になり、大変感謝しております。

ケアハウス・デイサービスの皆様も、日頃の活動の成果を披露できる事を待ち望みながら作品の作成にあたられ、ようやくこの日を迎えることができました。また、次回もどんな作品が集まるかが楽しみです。第19回ふれあいの里祭りでも皆さんのお越しをお待ちしております。



こすもす そうだ!江の島に行こう♪

9月30日(火)、行ってきました、江の島!

天気は文句なしで、心地の良い風を受けながらのんびりと過ごしてきました。

海を眺め、カモメの鳴き声を聴きながらの昼食はサイコーで、立派なお弁当も皆さん見事に完食され、トンビにも襲われずにすみました。

食後は皆さんのリクエストにお答えし、『釣り』チームと『店巡り』チームに分かれて過ごしました♪男性ご入居者は「いやあ～久しぶりだからできるかなあ!?!」と言いながらも熱心に竿を操る姿がありました。釣果はワタリガニだけでしたが、女性ご入居者にも喜んで頂けました。

店巡りでは、名物の夫婦饅頭やタコせんべいを買ってきました。お饅頭は温かいうちに釣りを眺めながら皆さんで召し上がって頂きました!とっても楽しい1日でした。



みのり 9月のイベント

9月15日 敬老祝賀会

敬老の日、祝賀会昼食をおこないました。入居者の方々がこれからもお元気で、生活できますようお願い、職員でお祝いさせていただきました。職員の「書」と寄書きのプレゼント、お寿司でお祝いました！



9月20日 フライングキッズ (子供ダンスサークル) の訪問

敬老会の第2部と銘打ち、市内の子供ダンスサークル (小学低学年中心の10人) が妖怪ウォッチの踊りを披露しにきてくださいました。年の差約80歳の交流です。衣装は父兄の手作りだそうです。当日は笑いアリ、涙アリの時間を過ごしました。入居者からお土産 (首飾り) をさしあげ子供さんからメダルを頂き、楽しい世代間交流でした。





12月26日(金)、資生堂さんが開催しているお化粧教室をお願いし、資生堂ビューティーセラピストの方に来て頂きました。



化粧療法とは？

精神疾患や認知症の方々の心理的な療法のひとつとして、「化粧療法」は注目されています。

化粧行為や色彩から、回想のきっかけになったり、自分の姿を鏡で見つめることにより自尊心や自己愛の回復や、感情や表情が蘇ったりなど、積極性や社会性が快復するといった臨床での数々の効果が報告されています。

まず、お化粧の前に皮脂油などの汚れを落とします。当センターの女性の方は、いくつになってもお化粧が好きなんですね。エプロンをかけたらウキウキしていらっしゃいました。

次に手首に香りの良いクリームを塗っていきました。皆さんのうれしい気持ちが、その表情からピンピン伝わってきました。ファンデーションを塗って（男性はおしろいを使用）、まゆずみはやはり男性の方は少し恥ずかしそうにしていたのですが、女性の方も何名かはカメラを向けると照れ笑いをされ、中には笑いが止まらなくなってしまった方も。

最後に口紅や頬紅に、髪にローズの香りをふりかけて整え、女性も男性も関係なく鏡を入念に見ながら仕上げていました。資生堂の方が用意して下さった花のコサージュ、男性には蝶ネクタイをつけて、「ハイ!チーズ!」いつもと違う雰囲気を醸し出していた皆さんでした。



● 新人紹介 ～もう一年経ちました～

北住 拓也



4月より特別養護老人ホームふれあいの泉に勤務しています。出身は神奈川で横浜育ちです。趣味は音楽(J-POP)を聴くことと、野球観戦です。職場ではわからないことばかりでしたが、先輩にいろいろ教えてもらいました。利用者様との接し方や食事介助、排泄介助など学んでいます。これからも任せてもらえることが増えるように頑張ります。

磯 紗和



私は高校の時、福祉科に所属していたので、その頃から介護の仕事に興味を持ちました。高校卒業後、介護の専門学校で2年間学び、4月に入職しました。生まれつき難聴で、両耳に補聴器をつけています。抱負は手話ができるので、高齢者にもできる「シニアサイン」をディサービスの現場で広げたいと思っています。趣味は料理をすることです。

海老澤 敦司



月日が経つのは早いものです。仕事には、慣れてきましたがまだ経験していない業務もたくさんありますので、先輩方の指導を頂きながら頑張ります。今後は、自分の得意な絵やモノ作りを活かして、施設での業務に幅を持たせたいです。そうすることで、利用者様と一緒に楽しみを増やしていきます。

落合 崇人



今年大学を卒業して、社会人1年目です。学校に行き勉強をする日々から職場に行き仕事をする生活へと環境が変わり、不安や悩みなど、考え込む事も有りましたが、少しずつ仕事や職場の雰囲気にも慣れて、とても楽しく日々の仕事に打ち込めています。これからも、仕事にやりがい、楽しさを肌で感じるように努めます。

本間 育英



私が「介護の仕事をしたかった」と思ったのは、人の役に立ちたかったからです。4月に入職して月日が経つのは早いものです。職場や仕事にも慣れて来ましたが、先輩方の指導をいただいて日々精進しているところです。これからも、利用者様と一緒に笑顔の溢れる施設、職場にしたいです。

佐久間 祐太



前職は、ディサービスで働いていました。その為、配属先となったふれあいの森施設での職務に戸惑いもありました。当初は、右往左往していましたが丁寧先輩方が指導してくるので、介護技術は勿論、コミュニケーションの仕方にも徐々に慣れてきました。これからの目標は、介護士として応用力を身につけることです。

編集後記

着任して早いもので、1年半余りが経ちました。この間、業界や法人を取巻く環境も大きく変わろうとしています。

しかし理事長の言葉にもある通り、今後ますます社会福祉法人としての自覚を持ち足元を固めた事業運営を心掛けたと考えています。

私たちが目指してきた理念とは何か、そしてその実践とは?と、自ら問いているところです。

よく「高齢者の尊厳・自立」という言葉を使いますが、いざ「尊厳とは何か?」という単純には説明できません。

私たちは決して対人援助としての身体介護や家事援助だけを目標にしてきたわけではありません。

その先にある尊厳とは、「その生命や生活が、尊く厳(おごそ)かで、侵してはならない価値のあるもの」と定義する

と、私たちは本当に心して対応しなくては、その尊厳は簡単に壊れてしまいます。

その意味で、尊厳は援助者の心の中にあり、援助者が創りだしていくものといえるでしょう。

一方、尊厳の上に成り立つ自立とは、どうでしょうか?

自立とは、決して「介護を受けなくてよい状態になる」ことではありません。

自立の定義も難しいですが、「自分らしい生活を営み、可能な限り主体的に生きていく」ということならば、そのことに価値を見出し、介護を要してもそれを支援・受容することが自立支援の本質だと考えています。

以上、今後も高齢者の尊厳を護り、そして自立支援の本質を職員各自が考え行動できる事業所を目指していきます。

法人事務長 鳥羽 芳弘